



よろこび

2018.9.20 第118号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信

今回は、ともに93歳の加藤久雄先生と西富三郎先生のお二人にご寄稿をお願いしました。

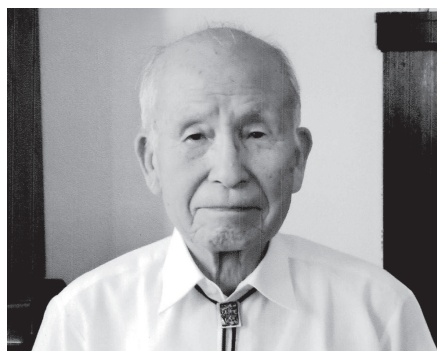
恵みの中で

加藤 久雄

1945年8月15日、私は兵庫県の加古川飛行場で敗戦を迎えました。当時20歳、単坐戦闘機の訓練中でした。郷里名古屋に帰りましたが、町は焦土と化し、人びとは食べることに懸命でした。空虚でした。生きる目標を失ってしまいました。そのような状況の中で、友人からきた手紙に「愛と希望と信仰は、限りなく世に残らん」(コリント前13・13)と記されていました。私の信仰は国家と結びつき、敗戦で消滅しました。愛は、皆自己愛と感じていました。希

望はありませんでした。この句は私の知らない世界からの響きとして迫りました。熱田教会に導かれ、1947年の復活祭に受洗しました。

熱田教会の同世代の友人、山田忠君と篠田潔君が献身し、神学校に進みました。私も鋭く内面を問われ、主に従う決意を新たに



加藤 久雄 先生

たことは深い喜びでした。65歳で熱田教会を辞任し、渥美半島の田原吉胡伝道所に招かれ、19年間在任し、隠退教師となりました。

入信以来、日本基督教団中部教区の教会で過ごし、愛知県

熱田教会で高橋秋蔵牧師に導かれ、山田忠、篠田潔両氏に出会い、深い交わりを得たことは、恵みであったと感謝しております。

1956年、神学校を卒業し、母教会の熱田教会に招かれ、35年間在任しました。この間、堅磐信誠幼稚園園長や金城学院聖書科講師を勤め、幼い園児や学生、生徒に接し、激動の時代に生を受けました。伝道者として使命を与えられ、54年間、

欠けた器が、尊い業に用いられました。そして、貴重な出会い、良い交わりを経験しました。人生は、妙々と思えます。不思議さと、美しさとの二つ

の意味をこめて。
恵みの中で誠に幸いな時を過ごさせていただき、深く感謝しております。
(かとう ひさお)

証詞

西 富三郎

敬老の月の9月、同労の皆さまお元気でいらっしやいますか。

私も10月になると94歳になります。入院や手術を何回かいたしました。主に守られ沖縄で過ごしています。思い出してみれば、過ぎ越した道程の早かったこと。

私は1945年3月10日の東京大空襲の後、出勤しない同僚を探しに、翌11日江東地区深川に行き、その惨状を見て人間の問題に突き当りました。その後、考え抜いて5月

24日夜、病院の看護婦長に連れられて教会に行きました。警察の留置所から出てきたばかりの、青白く痩せ細った牧師に会いまし



ユンタンザミュージアムにて 薫子夫人と共に

た。灯火管制下の薄暗い部屋で牧師は、聖書の「それは神はその獨子を賜ふほどに世を愛し給へり、すべて彼を信ずる者の亡びずして、永遠の生命を得んためなり」(ヨハネ3・16大正改訳)を読み、どんな時でも「神さまは愛です」と、私のために祈ってくださいました。しかし、8月

15日敗戦の後、教会からまったく離れ、教会生活から脱落してしまいました。

しかし、いろいろな経験をしましたが、主は約束の言葉である「視よ、われは主の婢女なり。汝の言のごとく、我に成れかし」(ルカ1・38大正改訳)と道を備えてくださいました。そして、他教派の神

学校に入学し、その後転入して教団に所属するものとなりました。最初の任地は大分県の東飯田教会(現在の玖珠教会)、そして、三重教会、天草平安教会に約40年にわたって仕えてまいりました。

さて、それにしては近年は知人友人同労者の皆さまが、「天に一人を増しぬ」の詩の通り、天つみ国に移されています。そこで、

昨年10月九州の大分や熊本で仕えた教会を、杖2本と家内に助けられながら、お訪ねしてまいりました。よき働きをしていてのを見て、とてもうれしく感謝でありました。残された時間の終わりまで、キリストの証人としての生活を過ごしてまいります。

最後に、私の全生涯を貫く聖書の言葉を記します。

「あなたがたの切り出された岩と、あなたがたの掘り出された穴とを思いみよ」(イザヤ書51・1口語訳)

(にし とみさぶろう)

新しく受給者となられた方

(18年5月～8月 敬称略)

隠退

太田 稔(大阪・東大阪)(大阪市)
中堀仁四郎(西東京・八王子北)(狹山市)
佐藤 謙吉(関東・島村)(高崎市)
田中ケイ子(中部・桃山)(春日井市)
鈴木 恭子(西中国・下関西)(下関市)
(5名、平均年齢74・5歳)

遺族

田中 富美(田中 久雄)(大網白里市)
影山 邦子(影山 謙)(福生市)
(カッコ内は、教師は最終任地と現在の居住地、遺族は故配偶者名と居住地)

「隠退教師を支える運動・1000円献金」 推進員をお引き受けして

東京教区南支区推進員 砂塚 秀子

隠退教師の生活をお支えるための推進員をお引き受けして2年目になります。今までこの運動をあまり理解していないままで「1000円献金」をお献げしていただきました。支区総会では、事務局長の鈴木秀信氏に説明していただきました。

その説明によると「隠退教師を支える運動（1000円献金―毎月1口1000円）」の目的は、教団年金局からお願いしている「謝恩日献金」と共に、



砂塚 秀子 さん

教団年金を増強し、制度の健全な継続を助けることとしています。しかし、事情により教団年金を受けておられない隠退教師・遺族もあることを心に深く留め、クリスマス祝い金をお贈りしています。このような働きのためにも一人でも多くの方がたの献金参加をお願いしたいとのことでした。

1000円献金の集め方
私の教会では教会員全員に1000円献金の袋を配ります。80代、90代と高齢者の多い中で皆、喜んでお献げくださいます。不思議なことに、ご高齢の方がたほど5口、10口、20口とお献げくださいます。長年、み言葉を聞き、み言葉に養われた方がたの信仰のあらわれでしょうか。

その後の流れ

毎週の週報には「隠退教師を支える運動」の献金をされた方がたの氏名が載せられますが、それが、わずか1000円のお献げでも牧師をお支えているという励みになっていくことと思います。

この地上に嗣業を持たない牧師の生活を、私どもがお支えできますことは大きな喜びです。

支区の働きかけ

はじめ『教団新報』の献金報告欄を目にした時、「謝恩日献金」が入っているのに「1000円献金」が入っていない。また、その逆の教会がありました。私の教会も「謝恩日献金」と「1000円献金」の区別ができませんでした。それは同じ事務所（※）で扱っているという安易な気持ちからでした。やはり根気強い説明と理解が必要かと思えます。

感謝をこめて

「私どもは取るに足らない僕です。しなければならぬこ

とをしただけです」とある先生がみ言葉を載せられて心境を語られていました。先生、私どもも同じ気持ちです。み言葉を通して生きる糧をくださった先生がたに「年金という形で感謝を込めて、しなければならぬことをしているだけです」と申し上げたいと思います。50年60年に及ぶ長き教会生活を終えられ、隠退教師となられ、教団年金で穏やかな日々を過ごしておられるご様子をうかがう時、私どもは、ほっといたします。

忘れられないこと

私の出合いの中で、この運動の推進員の方がおられました。天に召されたとのこと。ご一緒できなかったことが残念です。また、「私がこうしていられるのも年金のおかげよ」と言われた牧師婦人のことも忘れられません。

（すなづか ひでこ／碑文谷教会）

※年金局、「隠退教師を支える運動」推進事務局はそれぞれ別組織で運営されています。（推進事務局）

業務室より

— 年金を受けている方へ — 年金送付のお知らせ

10月の定例送金のご案内をします。

送金内容

① 謝恩金受給者

2018年度第3期分給付額
(2018年10, 11, 12月分)

② 退職年金受給者

2018年度第2期分給付額
(2018年7, 8, 9月分)

送金日 2018年10月10日(水)

期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2018年12月10日(月)

住所・年金振込先の変更は、できる限り早急に書状、FAX、メールで年金局にお知らせください。

☆ 2018年度「受給者名簿」を同封します。正確を期したつもりですが、誤りがありましたらお知らせください。この名簿は、受給者の交わりに役立つように作成しているものです。それ以外の目的にはご利用にならないよう、名簿の扱いにはくれぐれもご留意ください。

住所欄の□印は現況届で住所等の記載を望まない意思表示をされた方です。今年度4月以降に受給者となられた方はそのまま記載させていただきました。

☆ 今年4月以降、新たに31名(含再隠退6名)の隠退教師と5名の遺族が受給者となりました。去る7月10日の定例給付日には、謝恩金(遺族扶助料)、退職年金合計1億1288万円を741名の受給者にお送りしました。

☆ 6月21日～22日(木、金)第40総会

期第4回年金局理事会を開催しました。出席者26名。今回は、三菱UFJ信託銀行に委託した「第6回教団年金財政検証」の結果について、制度検討諮問委員会顧問・山下陽久氏から1時間半にわたる講義を受けました。

今回の検証結果では、過去勤務債務(積立不足金)が前検証(3年前)より約2億円減少し、教団年金は成熟期になったと言えるという説明されました。献金増加、経費節減等により、年金資産が2億円増加(43億円)したことにあります。教団年金の将来の危機的不安はなくなったと言えます。しかし、献金等が同等に継続されることが前提にあります。

顧問の説明を深く受け止め、「謝恩日献金」の増額のための方策について、教団間の情報交換を行いました。

☆ 今年度は6月下旬から真夏日が始まり、猛暑日、熱帯夜、40度超の危険日などが続く大変厳しい夏でした。その上、6月に大阪府北部地震、続いて西日本豪雨災害と痛ましい自然災害が続き、その修復、立ち直りにはまだまだ時間が必要です。被災された方がたすべてに主の憐みとお支えを切にお祈りいたします。地震と豪雨の直後、関連地区在住の受給者にお電話しました。幸い、ほとんどの方から自宅で日常生活ができると明るい声を聞くことができました。

☆ 酷暑の中ご寄稿くださった加藤久雄先生と西富三郎先生に感謝申し上げます。

☆ 皆さま夏のお疲れがでませんようにご愛ください。
(櫻井淳子)

日本キリスト教団 年金局
「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

年金局 Tel: 03(3202)2080

Fax: 03(3202)2081

mail: nenkin@clock.ocn.ne.jp

支える運動 Tel: 03(3202)2081(Fax 兼用)

mail: sasae@flute.ocn.ne.jp